

## 一般会計決算審査特別委員会会議録

- 1 日 時 令和5年9月13日(水曜日)  
開会 午前 9時57分  
閉会 午前10時13分
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席又は欠席した委員の氏名  
(出席) 別紙のとおり  
(欠席) 別紙のとおり  
(その他出席者) 議長 村木理英
- 4 職務のため出席した議会事務局職員の職氏名  
議会事務局長 西村佳子 同 次長 宇野裕  
同 主幹 鎌田美保 同 議事係主査 小野達司
- 5 説明のため出席した者の職氏名  
市長 片岡聡一 副市長 中島邦夫  
政策監 難波敏文 総合政策部長 梅田政徳  
総務部長 内田和弘 市民生活部長 新谷秀樹  
文化スポーツ部長 林直方 保健福祉部長 上田真琴  
産業部長 西川茂 建設部長 河田秀則  
環境水道部長 三宅伸明 教育長 久山延司  
教育部長 加治佐一 消防長 中山利典  
代表監査委員 風早俊昭 監査委員 頓宮美津子  
財政課長 横田優子 総務課長 小川修
- 6 付議事件及びその結果  
認定第1号 令和4年度総社市一般会計歳入歳出決算認定について  
認定すべきである。
- 7 議事経過の概要  
別紙のとおり
- 8 その他必要な事項  
別紙のとおり

別紙

出席した議員の氏名

議席番号	氏名	出欠
1	山名正晃	出
2	太田善介	出
3	荒木将之介	出
4	小野耕作	出
5	森安健一	出
6	仁熊進	出
7	山田雅徳	出
8	溝手宣良	出
9	三上周治	出
10	萱野哲也	出
11	三宅啓介	出

議席番号	氏名	出欠
12	岡崎亨一	出
13	深見昌宏	出
14	小川進一	欠
15	高谷幸男	出
16	小西利一	出
17	津神謙太郎	出
18	村木理英	議長として
19	頓宮美津子	監査委員
20	加藤保博	出
21	山口久子	出
22	剣持堅吾	出

欠席した議員の氏名

小川進一

開会 午前9時57分

○委員長（剣持堅吾君） ただいまから一般会計決算審査特別委員会を開会いたします。

本日の出席は19名であります。欠席は1名であります。

なお、欠席者のうち、小川進一委員より欠席の届け出がありました。

それでは、認定第1号 令和4年度総社市一般会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

本件に対し、分科会委員長の報告を求めます。

まず、総務生活分科会の審査経過について、委員長の報告を求めます。

総務生活分科会委員長 高谷幸男君。

○委員（高谷幸男君） ただいまから、認定第1号 令和4年度総社市一般会計歳入歳出決算認定についてのうち、総務生活分科会に分担されました部分の審査経過を御報告申し上げます。

審査経過についてであります。委員から、森林環境譲与税について使途はどうかとの質疑があり、当局から、新庁舎に必要な木材の調達に対して財源の一部に充てる予定である。現在充当しているものとしては、里山保全事業の助成金、森林環境整備に伴う委託費などがある。残った場合は、基金に積み立てているとの答弁がなされました。

次に、委員から、職員のストレスチェックやメンタルヘルスカウンセリングを実施しているが、事務量の増加・煩雑化・多様化による職員への精神的負荷の増加が課題であるなら、業務量削減や負荷軽減への対策は考えているのかとの質疑があり、当局から、平成30年7月豪雨災害や新型コロナ感染拡大など、特にここ数年の業務量の増加、職員への負担の増加は認識しており、デジタル技術の活用により事務改善し、業務の負担軽減を図っていききたいとの答弁がなされました。

次に、委員から、固定資産台帳更新業務委託について、予算額に対し決算額がかなり低い理由は何か。また、普通財産の適正な管理とは、どのようなことを指しているのかとの質疑があり、当局から、他市の状況等も参考に令和4年度から入札を実施したところ、低額で実施できたためである。普通財産については、使用しない土地の売り払いなどを進め、なるべく減らしていききたいとの答弁がなされました。

次に、委員から、大学交流促進事業について、大学との共同研究の選定や委託料はどのように決定しているのか。また、研究結果の利活用はどうかとの質疑があり、当局から、委託料については、研究の内容によって決定している。選定については、大学の知見と総社市のニーズのマッチングが難しく、令和4年度は4件の実施となっている。研究結果の活用については、今後も引き続き検討し進めたいとの答弁がなされました。

次に、委員から、消防団の小型動力ポンプで20年以上経過したものについて、今後の更新予定はどうかとの質疑があり、当局から、現在保有する82台のうち、20年以上経過しているものは31台あり、年2台程度ずつ計画的に更新している。定期的に点検を行っており、不具合があれば速やかに修理を実施しているとの答弁がなされました。

次に、委員から、令和4年度は黒字決算になっていると言われるが、単年度では赤字となっている。庁舎建設や病院の補助金など財源が必要な問題が山積している中で、令和4年度決算を財政運営としてどのように捉えているかとの質疑があり、当局から、令和4年度歳入において、市税や地方消費税交付金、普通交付税が当初の想定より多く、黒字になったという見方もできる。よって、この黒字は一時的な要素も強く、今後大型事業等に伴う多額の支出が見込まれることから、現事業の見直しによる財源確保の強化を大前提に取り組んでいきたいとの答弁がなされました。

そのほかにも関連して、公用車の点検・整備等について質疑、答弁がなされたところであり、本件のうち、本分科会に分担された部分については、全員一致で認定すべきであると取りまとめることに決定いたしました。

以上で、本分科会の報告を終わります。

○委員長（剣持堅吾君） 次に、文教福祉分科会の審査経過について、委員長の報告を求めます。

文教福祉分科会委員長 萱野哲也君。

○委員（萱野哲也君） ただいまから、認定第1号 令和4年度総社市一般会計歳入歳出決算認定についてのうち、文教福祉分科会に分担されました部分の審査経過を御報告申し上げます。

審査経過についてであります。委員から、私立保育所助成事業の障がい児支援事業について、令和3年度と比較すると約2倍の288万円を執行しているが、どのような理由によるものかとの質疑があり、当局から、対象児童が8人から11人に増えた。また、障がいのある児童に対する保育所の職員の受入体制が徐々に進んできているとの答弁がなされました。

次に、委員から、子育て支援短期利用等事業の病児・病後児保育事業について、他市施設の利用人数が令和3年度は28人であったのに対し、令和4年度は61人となっているが、どのような理由によるものかとの質疑があり、当局から、県南の18自治体で相互の施設利用が可能であり、令和4年度から3施設が増え、現在は17施設となり、より利便性が向上したものと考えているとの答弁がなされました。

次に、委員から、健康インセンティブ事業の歩得について、どのくらい市民の健康に寄与できているのか。また、リン得については、執行率が低く、目的も踏まえ事業を見直す考えはないのかとの質疑があり、当局から、歩得に参加している方と参加していない方で令和4年度における1人当たり平均医療費を比較したところ、国民健康保険加入者では2万5,600円の差があり、また後期高齢者医療保険加入者では、約20万円の差があった。令和4年度の参加人数は4,433人であったが、目標は5,000人としているので、さらに参加人数を増やしていきたいと考えている。また、リン得については、健康面で効果はあるものの、参加人数は172人と少ないと感じており、目的も健康、観光など多岐に渡っているため、事業内容の見直しを検討していきたいとの答弁がなされました。

次に、委員から、家庭教育支援推進事業の親育ち応援学習プログラムを活用した研修は、良い事業だと思うので、学校にもっと実施してもらえるよう働きかけはできないのかとの質疑があり、当局から、保護者同士が交流しての参加型研修のため、参観日などの機会を捉えて実施しているが、

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりあまり実施できなかった。保護者からは悩みを解消できたという意見も聞いており、今年度は数多く開催してもらえよう推進していきたいとの答弁がなされました。

次に、委員から、雪舟公園管理経費について、イベントを実施する際は、来園者数が多いが、普段から親しまれるような公園にはできないか。また、親子や子どもだけで行っても楽しめるような公園にしていく必要があると感じているが、どうかとの質疑があり、当局から、地元の方からは月に一回はイベントを実施してほしいと要望もあり、今後も続けていきたい。学校の施設見学の際は、職員が説明を行い、雪舟のことを学んでもらったり、雪舟の複製品は、季節ごとに入れ替えを行っている。また、子どもにはたくさん来園してもらいたいと考えており、高額な遊具はないが遊具の貸し出しを行っている。雪舟の作品をもっと知ってもらい、来園者数が増えるよう努力していきたいとの答弁がなされたところであり、本件のうち、本分科会に分担された部分については、全員一致で認定すべきであると取りまとめることに決定いたしました。

以上で、本分科会の報告を終わります。

○委員長（剣持堅吾君） 次に、産業建設分科会の審査経過について委員長の報告を求めます。

産業建設分科会副委員長 三上周治君。

○委員（三上周治君） ただいまから、認定第1号 令和4年度総社市一般会計歳入歳出決算認定についてのうち、産業建設分科会に分担されました部分の審査経過を御報告申し上げます。

審査経過についてであります。委員から、ごみ減量化事業について、地区によっては、資源回収に参加できる人も少なくなってきたり、この活動自体が先細りしていく気がするが、どうかとの質疑があり、当局から、資源回収の活動については、令和4年度は106団体が加入団体として登録し活動していただいております。この加入数については、多少の減少はあるがほぼ横ばいで推移している。コロナ禍で資源回収の量が減ったことや、デジタル化の影響で古紙などの回収が減少していることから、資源回収報奨金も減少はしているが、団体数はほぼ横ばいで推移しており、引き続き支援していきたいと考えているとの答弁がなされました。

次に、委員から、有害鳥獣の捕獲数は予算上適当であったかとの質疑があり、当局から、捕獲頭数については、年毎に差があるが、比較的頭数の多かった令和元年度をベースに予算計上しており、令和4年度の予算上は818頭で、実績は798頭であったとの答弁がなされました。

次に、委員から、観光一般経費については概ね予定通りの執行状況と思われるが、観光客の推移というのはデータがあるのかとの質疑があり、当局から、令和4年度が64万人で、コロナ禍前の平成30年度と比較して84%まで回復してきている。なお、令和3年度は49万人であったとの答弁がなされました。

次に、委員から、農地利用集積推進事業の執行率が低いということは、流動化がうまくいかなかったということかとの質疑があり、当局から、予算上は農地流動化推進員報奨金のほかに、農地利用集積事業補助金を100万円計上していたが、当初予定していた対象地区で話がまとまらず、当該

予算を執行しなかったために、本事業の執行率が低い結果となったとの答弁がなされました。

次に、委員から、道路維持経費のうち除草等委託料について、34件とあるが、要望件数はいくらだったかとの質疑があり、当局から、34件のうち11件が要望に対するものであり、要望のあったものは全て対応したとの答弁がなされたところであり、本分科会に分担された部分については、全員一致で認定すべきであると取りまとめることに決定いたしました。

以上で、本分科会の報告を終わります。

○委員長（剣持堅吾君） 以上をもって、分科会委員長の報告は終わりました。

これより、ただいまの分科会委員長報告に対する質疑に入ります。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（剣持堅吾君） ないようでありますので、これをもって分科会委員長報告に対する質疑を終結いたします。

これより、討論に入ります。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（剣持堅吾君） これをもって、討論を終結いたします。

これより、本件を採決いたします。

本件は、認定すべきであると決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（剣持堅吾君） 御異議なしと認めます。

よって、本件は、認定すべきであると決定いたしました。

この際、お諮りいたします。

委員会審査報告書並びに委員長報告の作成につきましては、委員長に御一任願えますか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（剣持堅吾君） 御異議なしと認めます。

よって、一任と決定いたしました。

以上をもちまして、本特別委員会に付託されました案件は審査を終了いたしました。

これをもって、一般会計決算審査特別委員会を閉会いたします。

閉会 午前10時13分

総社市議会委員会条例第30条第1項の規定によりここに記名押印する。

一般会計決算審査特別委員会委員長 剣持堅吾